

株式会社日新 2015年3月期第2四半期 決算説明会

第5次中期経営計画、順調にスタート
～ 自動車物流・アジアへの積極投資と
国内危険品業務のサービス拡充 ～



2014年11月21日

2014年3月期決算説明会
(2014年5月23日開催)

株式会社日新
2014年3月期決算・中期経営計画説明会



今期

第2四半期実績は
増収、営業増益

通期計画は
当期利益を除き変更なし

自動車部品物流の
見通しは引き続き好調

インドネシアにおける
物流事業に新たな展開

2015年3月期第2四半期実績

～ ほぼ計画通り順調に推移 ～

増収、営業増益

- アジア地域を中心に自動車関連物流が好調に推移、日本・欧州地域の改善に加え旅行事業が寄与
- 当期利益の減少は、第1四半期での特別損失

日本は 航空貨物・化学品が 順調

- 日本は自動車・港湾運送・海上輸入が伸び悩むも、航空貨物・化学品に加え関係会社も順調に推移

下期も 自動車関連物流を 取り込む

- 引き続き好調が見込まれるアジア・米州地域での自動車部品物流の取り込みに注力

- アジア地域を中心に自動車関連物流が好調に推移、日本・欧州地域の改善に加え旅行が寄与
- 当期利益の減少は、第1四半期での特別損失

(単位: 百万円)

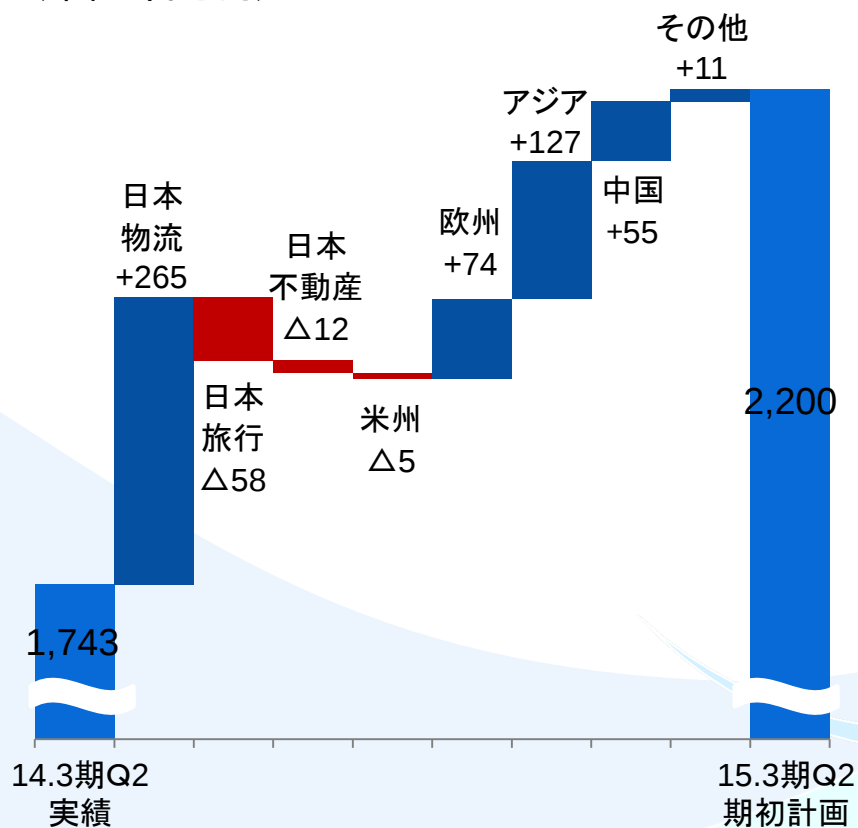
	2015年3月期 第2四半期 実績	修正計画 (2014.8.6)	修正計画比	前年同期 実績	前期比
売上高	100,073	99,000	1.1%	93,151	7.4%
営業利益	2,022	2,200	△8.1%	1,743	16.0%
経常利益	2,028	2,300	△11.8%	1,961	3.4%
特別損益	△756	-	-	△121	-
当期利益	835	700	19.3%	1,230	△32.1%

2015年3月期 第2四半期 地域別実績(営業利益)

- 日本は自動車・港湾運送・海上輸入が伸び悩むも、航空貨物・化学品に加え関係会社も順調
- 米州地域は年初の寒波による荷動き停滞響く、欧州・アジア地域はほぼ計画通り
- 旅行は取扱増に加え業務効率化効果で伸長

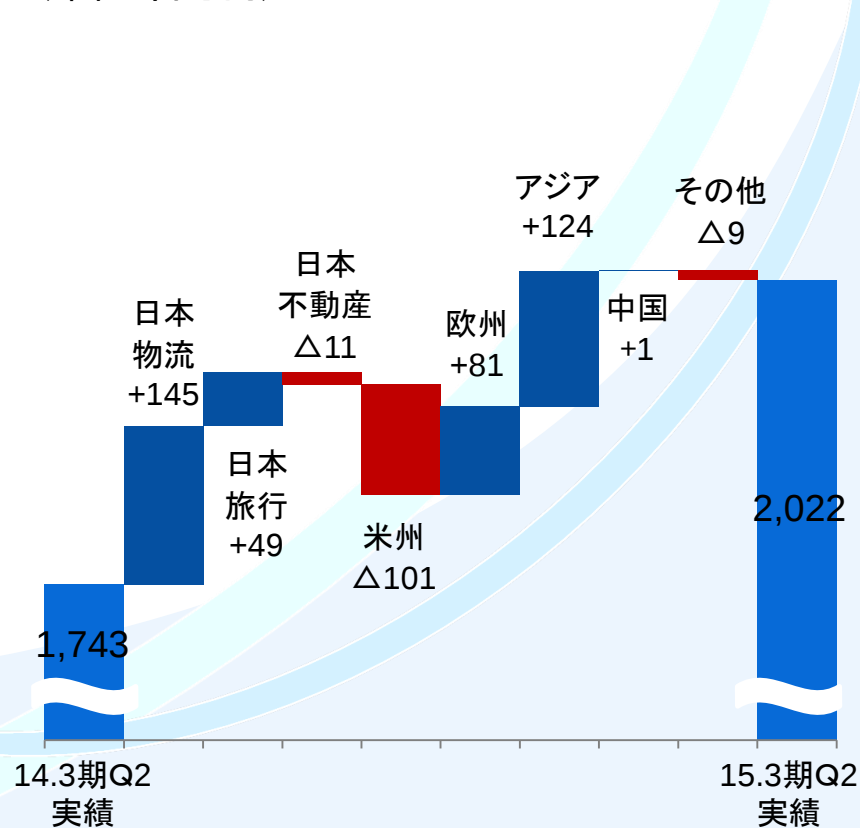
期初計画(2014.5.8)

(単位:百万円)



実績

(単位:百万円)



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

各施策の取組み状況(単体)

第2四半期 期初計画(前年同期比増減)

第2四半期結果

①自動車関連

北米・中国向け部品輸送の堅調な推移

日本着部品輸入の取扱増加

+50百万円

北米・中国向け輸出順調も、アジア向け輸出低調

輸入部品取扱い順調

輸出完成車大幅減少

△10百万円

②港湾運送・倉庫

中国船社他の大型船化によるターミナルでのコンテナ取扱拡大

ターミナル業務の人員配置効率化

倉庫の集約による業務効率化

+120百万円

中国船社業務回復も、一部船社航路再編響く

集約効果

+50百万円

③その他

海上輸入

製材輸入の堅調な推移と合板の取扱回復

日用品輸入の取扱増加

食品輸入の取扱回復

△20百万円

消費増税響き、伸び悩み

消費増税響き、伸び悩み

乳製品以外は伸び悩み

△40百万円

化学品関連

潤滑油、添加剤の輸出取扱増加

化学品生産の回復による取扱増加

+20百万円

円安効果で輸出増加

+40百万円

航空輸送

輸入取扱増加(食品、花卉、アパレル等)

混載効率の改善

+20百万円

米国発生鮮品低調

輸出底打ち、航空会社の集約推進

+60百万円

物量推移

～ 日本発航空貨物は回復基調 ～

航空貨物

地域別輸出取扱物量 → P10

- 日本発は自動車関連を中心に回復基調、米州発は生鮮伸び悩み、アジア発は前年反動・海上シフト
- 下期は、自動車関連に加え電子部材の寄与もあり、各地域発とも取扱増を見込む

日本発輸出混載取扱物量 → P11

- 底を打ち、自動車関連貨物(実車、部品)を中心に、アパレル関連が順調に推移
- 下期は、自動車関連、アパレル関連を中心に引き続き回復基調での推移を見込む

日本着輸入取扱件数 → P12

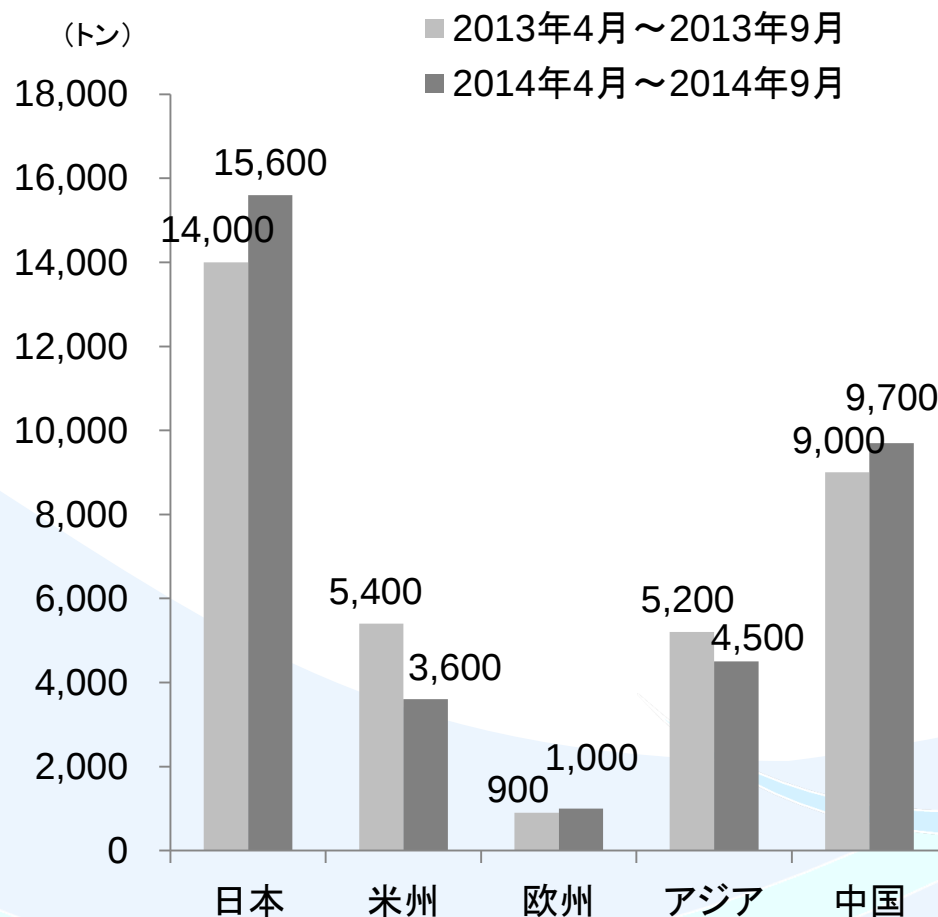
- 自動車部品・医薬品関連の取扱いが順調も、北米発などの生鮮が低調
- 下期は、年末の需要期に向け食品、花卉、アパレルなどを中心に回復を見込む

地域別輸出取扱物量 → P13

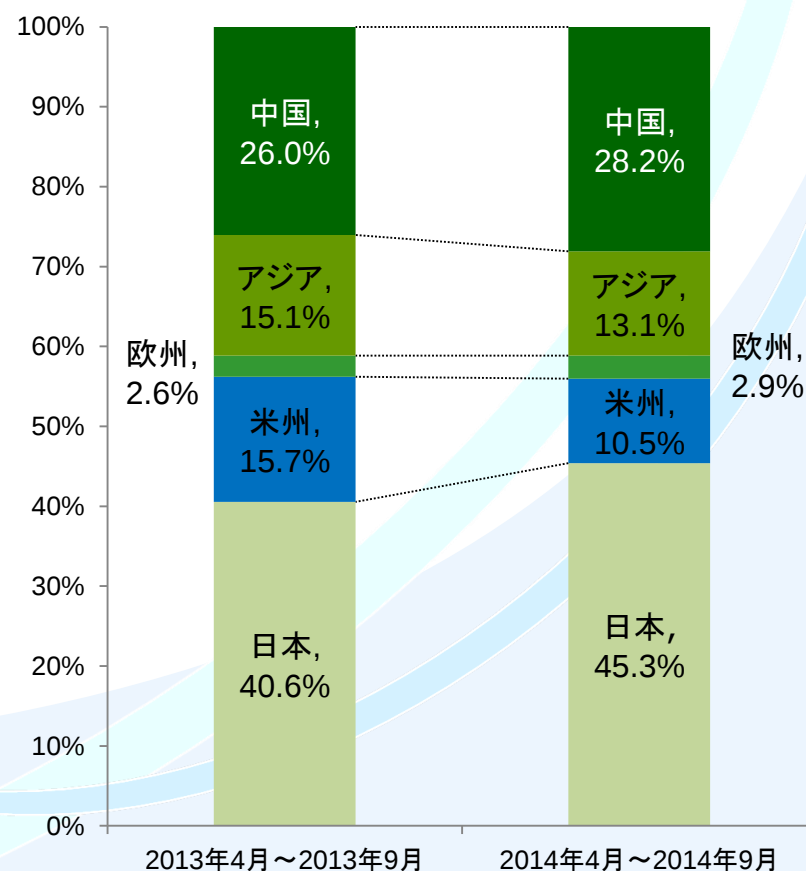
- 中国発は米州向け自動車関連が順調に推移、日本発は米州向け自動車関連が堅調も、アジア向けが低調に推移
- 下期は、中国発は引き続き順調、日本発はアジア向けの回復を見込み、米州向けは不透明

海上貨物

- 日本は自動車関連を中心に回復基調、米州は生鮮伸び悩み、アジアは前年反動・海上シフト
- 下期は、自動車関連に加え電子部材の寄与もあり、各地域とも取扱増を見込む

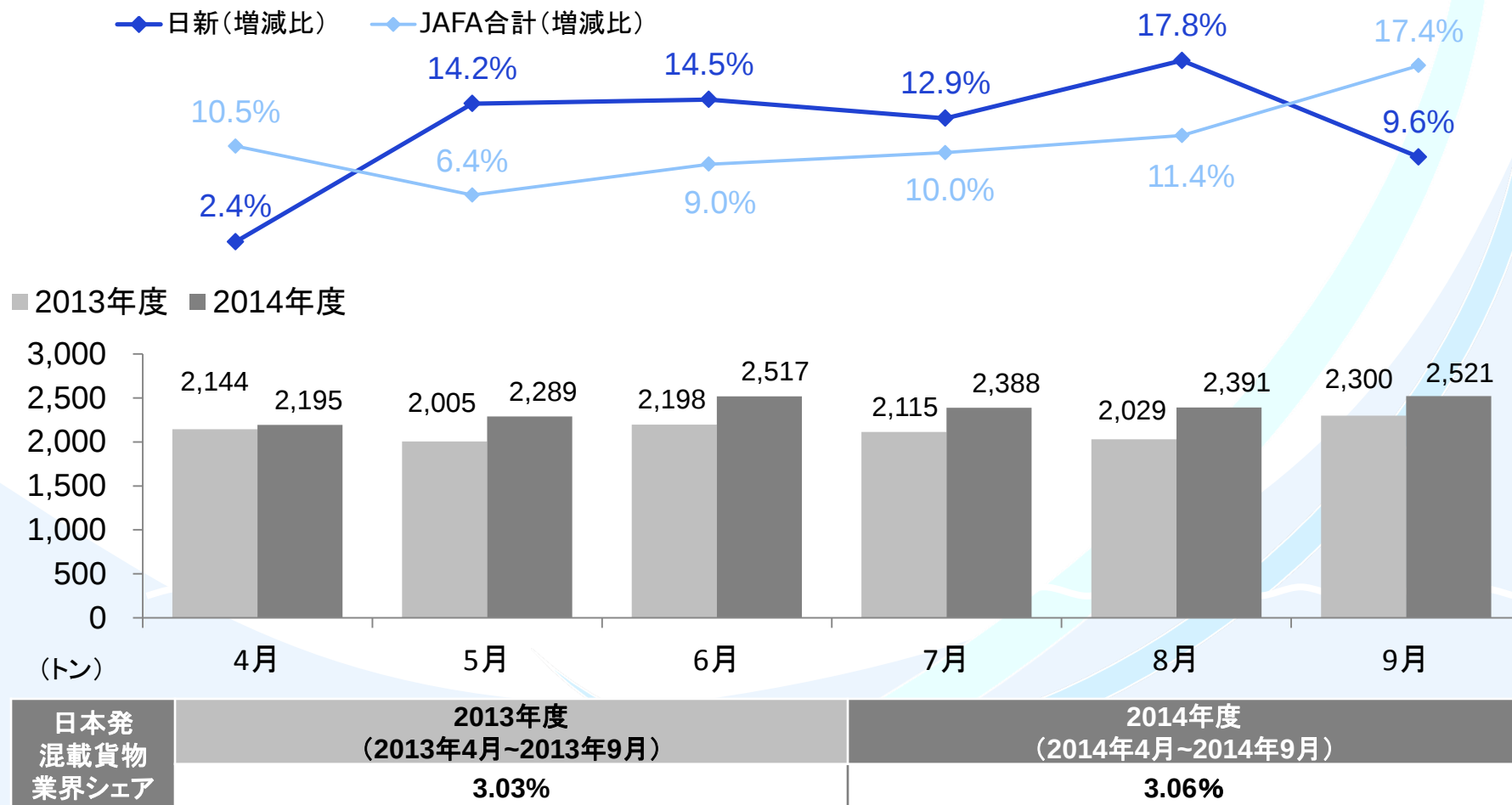


地域構成比 推移



航空貨物 日本発輸出混載取扱物量 月別推移

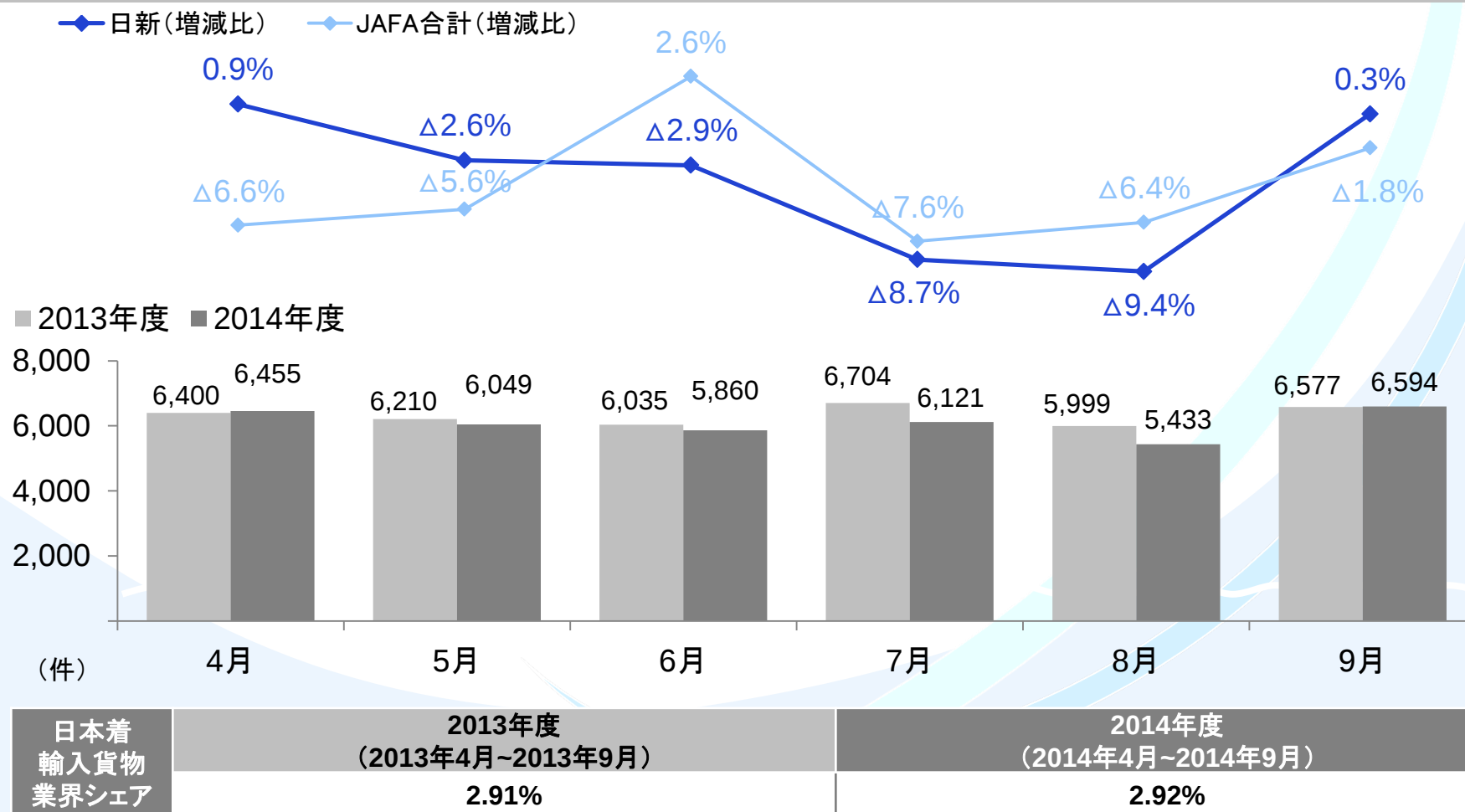
- 底を打ち、自動車関連貨物(実車、部品)を中心に、アパレル関連が順調に推移
- 下期は、自動車関連、アパレル関連を中心に引き続き回復基調での推移を見込む



※ 業界シェアは当社推計

航空貨物 日本着輸入取扱件数 月別推移

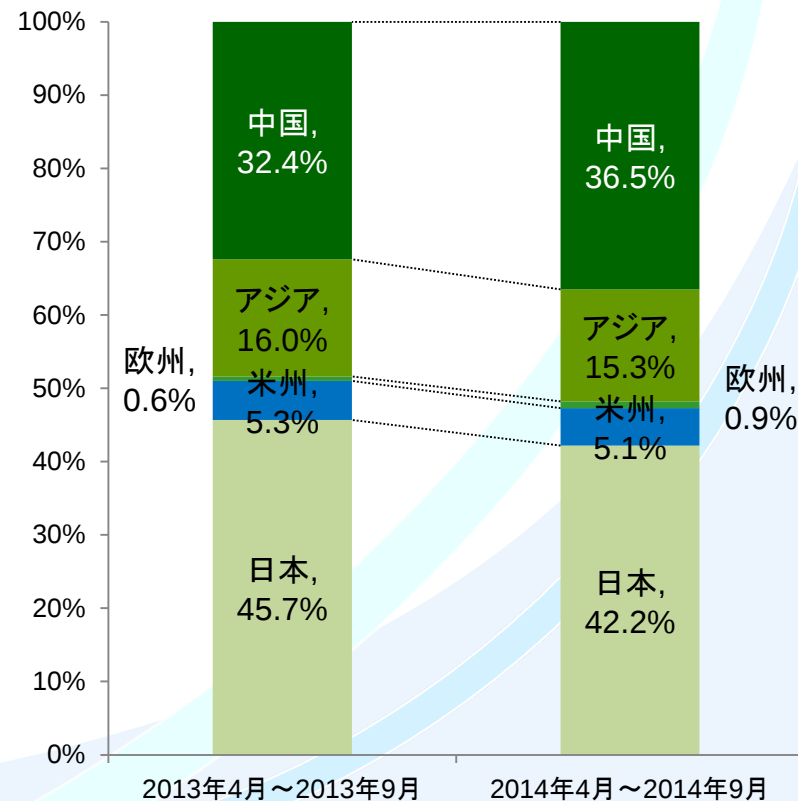
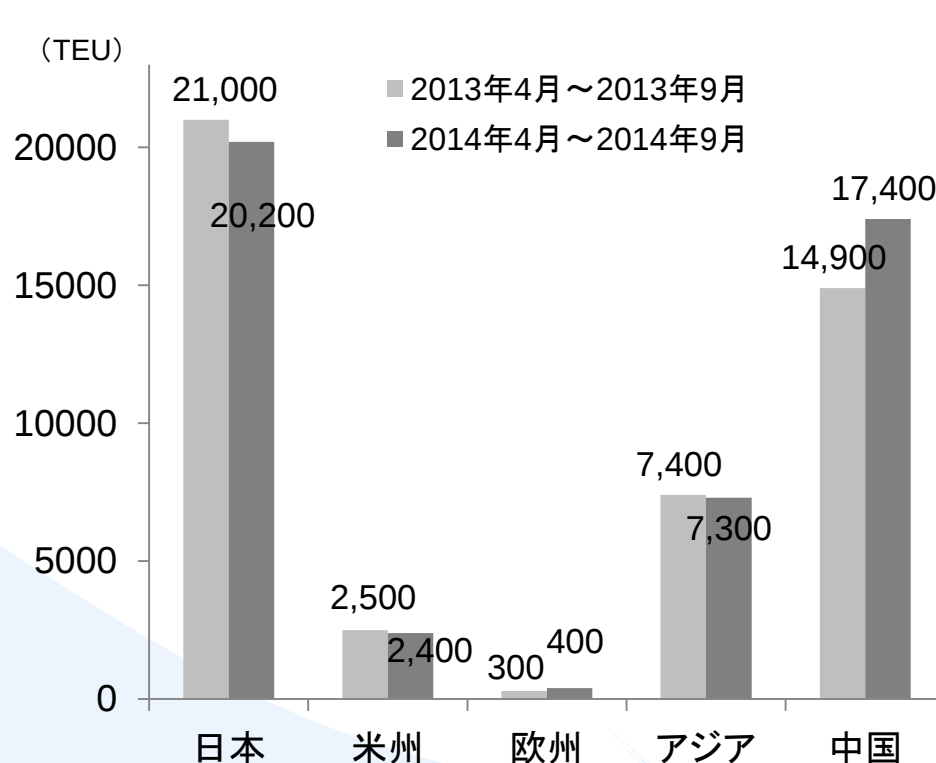
- 自動車部品・医薬品関連の取扱いが順調も、北米発などの生鮮が低調
- 下期は、年末の需要期に向け食品、花卉、アパレルなどを中心に回復を見込む



※ 業界シェアは当社推計

NVOCC(FCL) 地域別輸出取扱物量

- 中国発は米州向け自動車関連が順調に推移、日本発は米州向け自動車関連が堅調も、アジア向けが低調に推移
- 下期は、中国発は引き続き順調、日本発はアジア向けの回復を見込む、米州向けは不透明



※ TEU(Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数

日本発 米国向け 業界シェア	2013年度(2013年4月～2013年9月)	2014年度(2014年4月～2014年9月)
	5.25%	5.36%

※ 業界シェアは当社推計

2015年3月期の見通し

～ 当期利益を除き、期初計画通り～

2015年3月期 通期計画の前提条件

期初の想定

自動車関連

- ▲ 北米での完成車生産 増加
- ▲ アジアでの部品生産 増加
- ▲ 日本着の部品輸入 増加
- ▼ 日本発完成車輸出 減少

中国市場 関連

- ▲ 日中貿易 回復
- ▼ 中国経済 減速懸念

電機・電子 関連

- ▼ 業界の先行き 不透明

その他・一般

- ▲ 日本着の製材・合板輸入 堅調
- ▲ 日本発航空貨物マーケット回復

為替相場

2015年3月期 予算策定レート
1\$=¥102.92
EUR=¥141.65

足元の状況

- ▲ 北米での完成車生産 順調
- ▲ アジア発の部品輸出 順調
- ▲ 日本着の部品輸入 堅調
- ▼ 日本発完成車輸出 減少

- ▲ 日中貿易 回復基調
中国船の取扱物量増加
- ▼ 中国経済 減速懸念継続

- ▼ 国内配送 消費増税の影響で低調

- ▼ 製材・合板輸入 低調
- ▲ 航空輸出 底打ち回復基調

1\$=¥118.73、EUR=¥148.82
(2014年11月20日現在)

【為替換算差(営業利益段階)】
米ドル、ユーロは1円の変動で、17百万円の影響

2015年3月期 通期計画

- 日本における物流事業の回復およびコスト削減効果に加え、アジア・中国地域の下支えにより、通期計画の達成を見込む

(単位: 百万円)

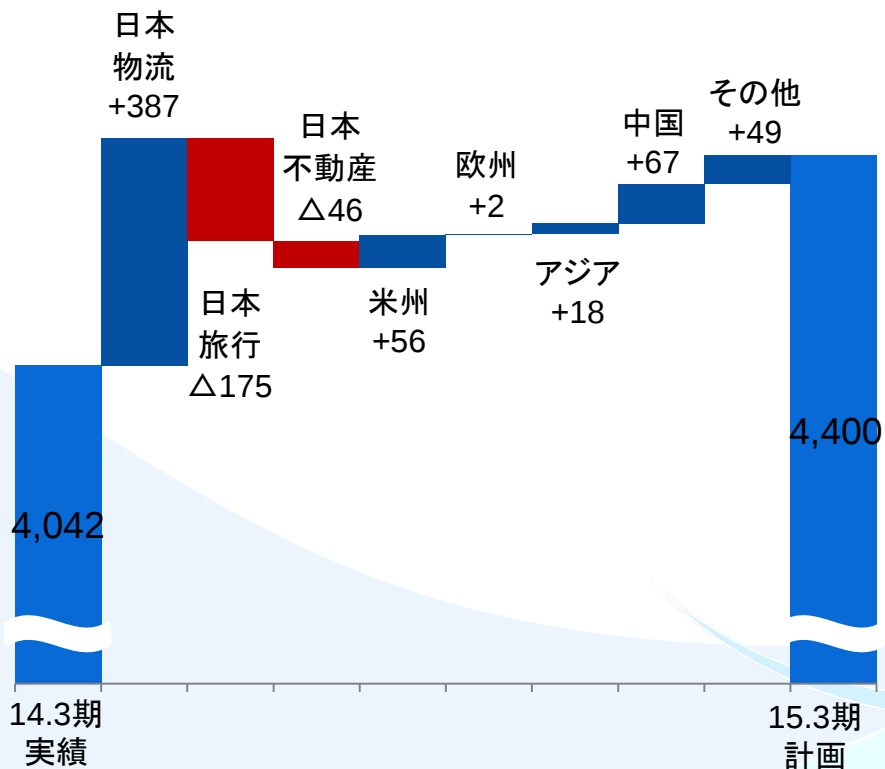
	2014年3月期 実績	期初計画 (2014.5.8)	修正計画 (2014.8.6)	2015年3月期 第2四半期 実績	計画に 対する 進捗率
売上高	193,709	198,000	198,000	100,073	50.5%
営業利益	4,042	4,400	4,400	2,022	46.0%
経常利益	4,681	4,700	4,700	2,028	43.1%
当期利益	2,624	2,900	2,150	835	38.8%

2015年3月期 地域別通期計画(営業利益)

- 日本は航空貨物・化学品の伸長、関係会社の順調な推移に加え、コスト削減効果で利益押し上げ
- 米州地域は年初の停滞響く、アジア・中国地域はほぼ計画通り
- 旅行は取扱増と業務効率化効果で増益

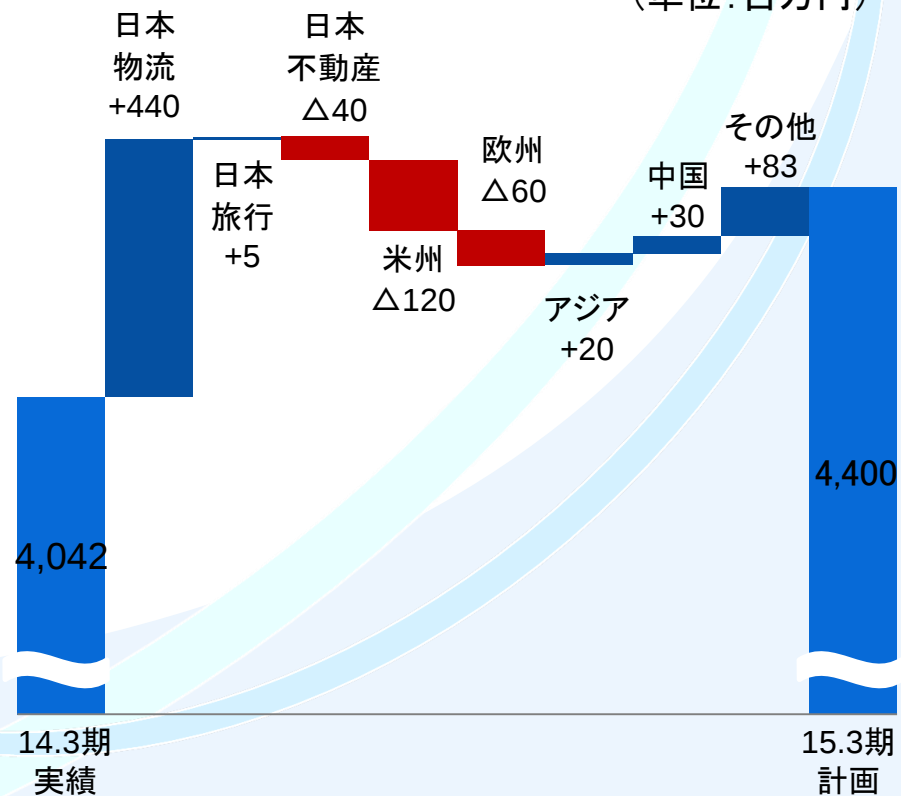
期初計画(2014.5.8)

(単位:百万円)



修正計画

(単位:百万円)



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

各施策の取組み状況(単体)

期初想定(前年同期比) (単位:百万円)					修正計画(前同比) (単位:百万円)			見通し
①自動車関連		上期計画	下期計画	通期計画	上期実績	下期計画	通期計画	
北米・中国向け部品輸送の堅調な推移		+50	+10	+60	△10	△10	△20	北米・中国向け輸出堅調、アジア向け回復
日本着部品輸入の取扱増加								堅調に推移
								輸出完成車低調
②港湾運送・倉庫								
中国船社他的大型船化によるターミナルでのコンテナ取扱拡大		+120	+40	+160	+50	+20	+70	中国船社業務は順調 航路再編は不透明
ターミナル業務の人員配置効率化								
倉庫の集約による業務効率化								集約効果継続
③その他								
海上輸入	製材輸入の堅調な推移と合板の取扱回復	△20	+110	+90	△40	+60	+20	製材・合板回復遅れ
	日用品輸入の取扱増加							後半回復
	食品輸入の取扱回復							需要期を迎え回復
化学品関連	潤滑油、添加剤の輸出取扱増加	+20	+20	+40	+40	+50	+90	順調に推移
	化学品生産の回復による取扱増加							
航空輸送	輸入取扱増加(食品、花卉、アパレル等)	+20	+30	+50	+60	+80	+140	需要期を迎え回復
	混載効率の改善							物量回復、効率化継続

各重点施策の進捗(2015年3月期)

3つの重点施策	具体的取組み	利益寄与開始
1. 海外事業の強化	クロスボーダー輸送 ● タイ(バンコク)・マレーシア(マラッカ)間 ● 米国(LA)・メキシコ(グアダラハラ)間	上期～
	タイ・プラチンブリ自動車部品用倉庫開設	上期～
	無錫保税区でのスマホ関連部材保管・配送業務	下期～
	インドネシア新倉庫会社の連結化	下期～
2. 国内事業の再構築	神戸港ターミナル活用 輸出用中古建機・自動車置場	下期～
	蘭ISOタンクコンテナオペレーター「デン・ハート社」と総代理店契約締結、業務開始	下期～
	名古屋発危険品海上混載輸送サービス	下期～
3. 経営基盤の強化	業務効率化推進 — 人件費・経費削減	下期～

ISOタンクコンテナによる新サービスの開始

- 世界的なISOタンクコンテナのオペレーターである、デン・ハート社(本社オランダ)の日本における総代理店として国際一貫輸送サービスを開始

国際一貫輸送



液体化学品輸送



DEN HARTOGH

輸出イメージ

充填

輸送・通関・B/L発行の一貫輸送サービス

荷卸し



国内工場

日本各港
(東京、横浜、川崎、千葉、名古屋、大阪、
神戸、博多、門司、徳山)

海外港

海外工場

国内タンクデポ

- クリーニング
- メンテナンスを実施



海外タンクデポ

- クリーニング
- メンテナンスを実施

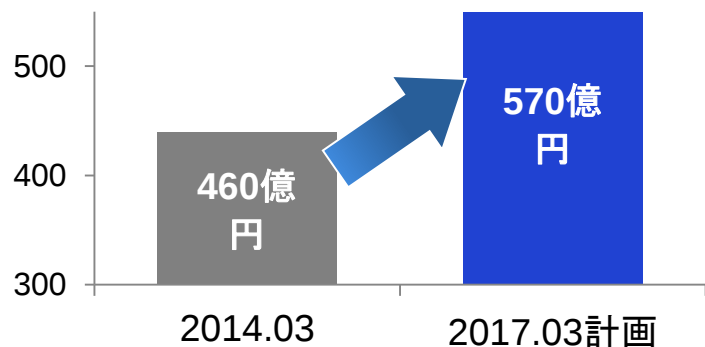


第5次中期経営計画の見通し

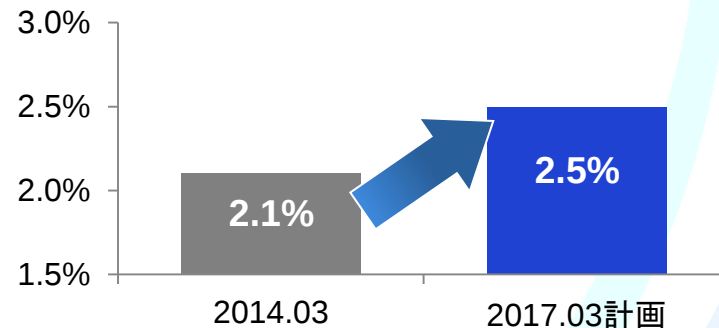
～ 順調なスタート ～

第5次中期経営計画

海外現地法人の売上高拡大



連結営業利益率の改善



(単位:百万円)

	2014年3月期 実績	第5次中期経営計画			
		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	
		修正計画 (2014.8.6)	計画	計画	2014年3月期比
売上高	193,709	198,000	205,000	213,000	10.0%
営業利益	4,042	4,400	4,900	5,400	33.6%
経常利益	4,681	4,700	5,100	5,600	19.6%
当期純利益	2,624	2,150	3,300	3,600	37.2%
営業利益率	2.1%	2.2%	2.4%	2.5%	—
ROE	6.1%	4.6%	6.7%	7.2%	—

第5次中期経営計画 ～ 3つの重点施策 ～

3つの重点施策	取組み	
1. 海外事業の強化 自動車関連物流を軸に 展開加速	海外現地法人の事業基盤強化	● 輸出入業務・保管サービスの高品質化 ● 新たな業務・顧客の開拓
	海外地域別の取組み	
	アジア	● 大メコン圏・マレー半島広域物流網の整備 ● ラオス、ミャンマー、カンボジアでの事業展開推進
	中国	● 輸出入業務体制の拡充
	米州	● メキシコ、米国中西部での自動車物流拡大 ● 食品物流の強化
2. 国内事業の再構築 コスト競争力の強化	収益力向上	● 陸運事業の再構築 ● 港湾施設(ターミナル)運営サービスの再編、効率化
	新規事業展開、既存業務の拡大	● 成長分野(食品・医薬医療・危険品物流)への展開強化 ● 高収益施設への建替え ● ITサービス提供の事業化推進
3. 経営基盤の強化	資産の効率化	● 管財機能の強化、不動産の活用 ● 横浜本社ビル、北仲通北地区の再開発
	グローバルリスク管理体制の強化	

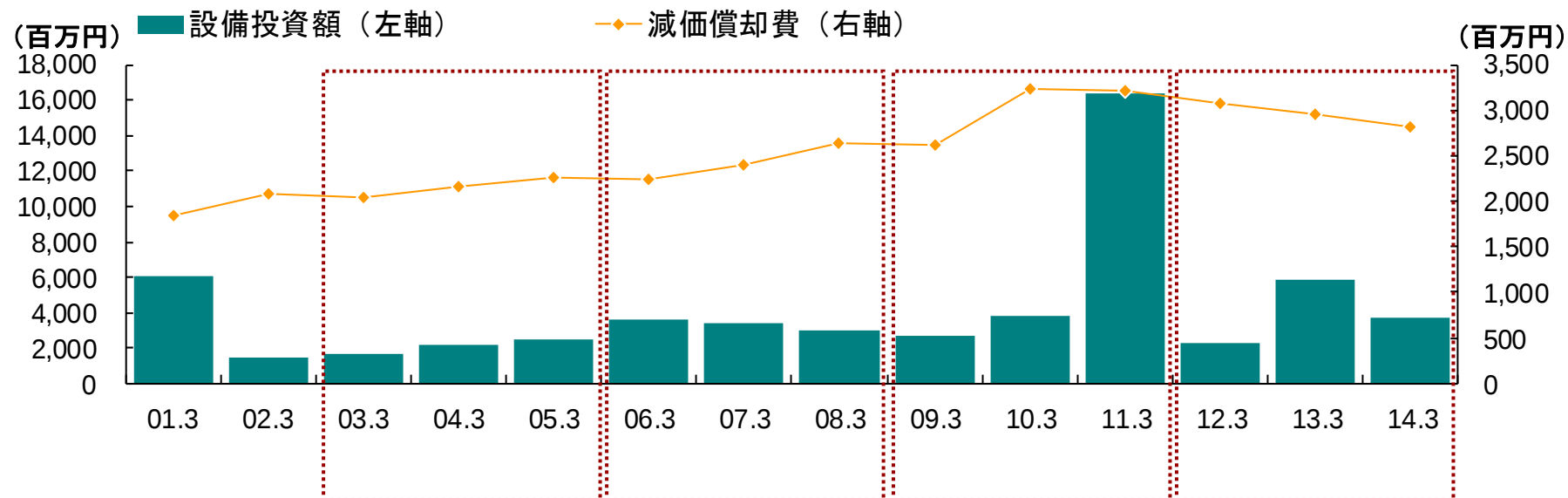
第5次中期経営計画 ～ 重点施策の進捗 ～

3つの重点施策	具体的取組み	利益寄与開始 (予定)
1. 海外事業の強化	米国オハイオでの自動車部品倉庫増設	2015年度上期
	メキシコ中部におけるミルクラン輸送	2015年度下期
2. 国内事業の再構築	鶴見倉庫 危険品倉庫増設	2015年度下期
	梱包工場の取扱能力増強	2017年度以降
3. 経営基盤の強化	横浜本社ビル再開発 ― 賃料コスト削減	2016年度以降
	北仲通北地区再開発	2017年度以降

- 横浜・北仲通北地区再開発事業に参画、住宅を中心に複合用途の開発が可能



投資および減価償却費の推移



摩耶東物流センター建設

【4中計期間】
新規投資
計画: 160億円
↓
実績: 118億円

成田LC建設

【5中計期間】
新規投資
計画: 150億円
国際物流: 50億円
国内施設再構築: 70億円
成長分野: 10億円
IT: 20億円

堺LC取得

鶴見倉庫取得

マラッカ倉庫建設

インド日新
株式追加
取得

上海高信
出資持分追加
取得

日新ジャヤ・インドネシア
設立

自動車関連物流の展望

足元の見通し

マイナスはあるものの、
プラスを取り込む

国内は収益確保

- 生産拠点の移転により、完成車輸出業務は縮小。規模縮小の中、部品輸出入、内航船業務で収益を確保

北米・アジアでの
順調な生産継続

- 米国・メキシコ・マレーシアでは順調な生産が続く見通し
- クロスボーダー輸送、JIT対応で部品物流を取り込み

2~3年の方向性

グローバル・高品質が
明確な選定基準に

開発拠点の海外移
転による新たな
物流需要

- 開発拠点の海外移転に伴い、新たな開発用部品物流が発生
- 米オハイオで自動車部品倉庫増設

メキシコ生産
本格化

- メキシコでの完成車生産の本格化により、ベンダーを含め部品物流が増加
- ミルクラン対応で部品物流を取り込み

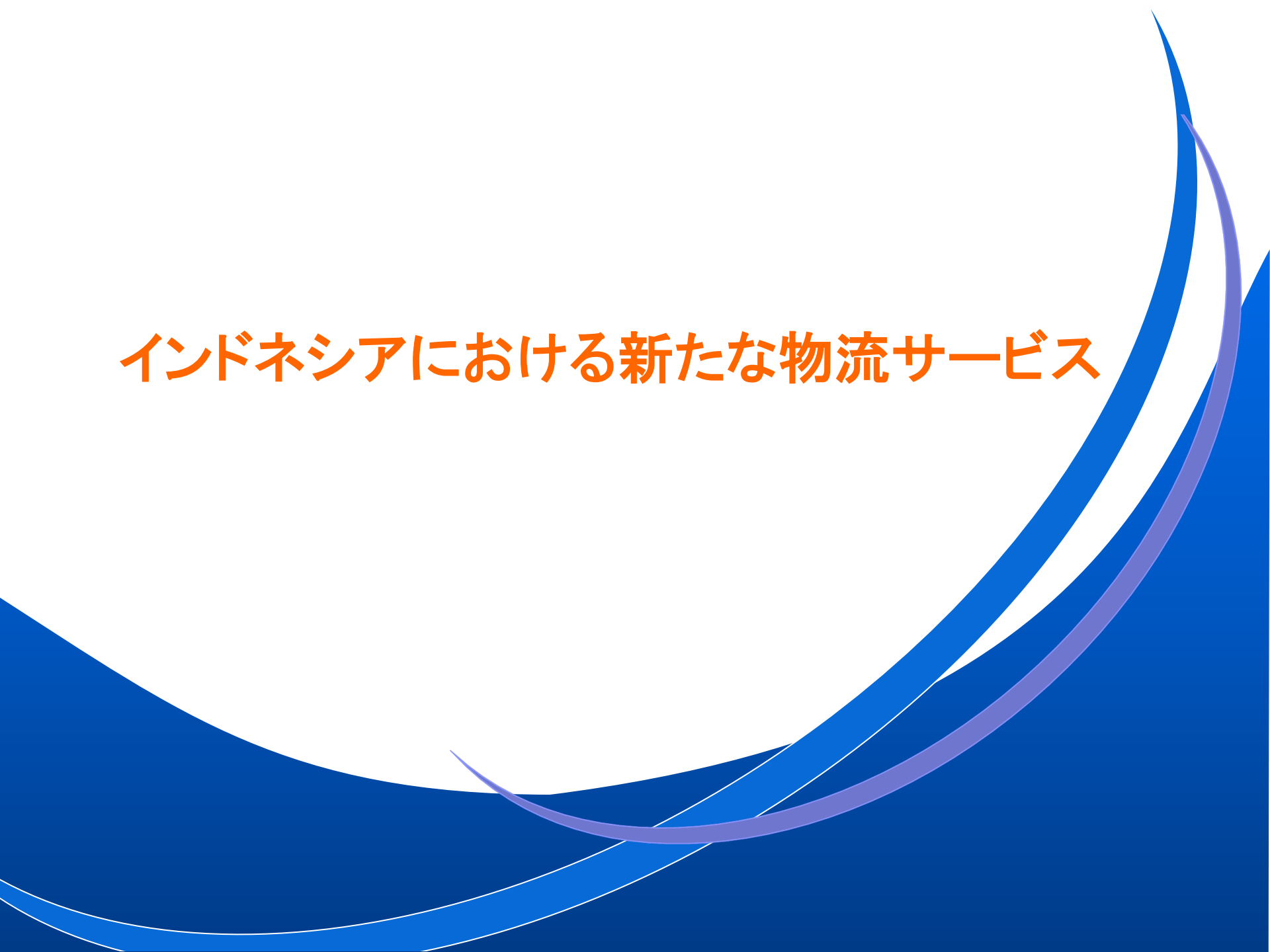
完成車輸出入増加
の可能性

- 完成車相互補完体制の強化の動き
- 日本で完成車輸出入体制を整備

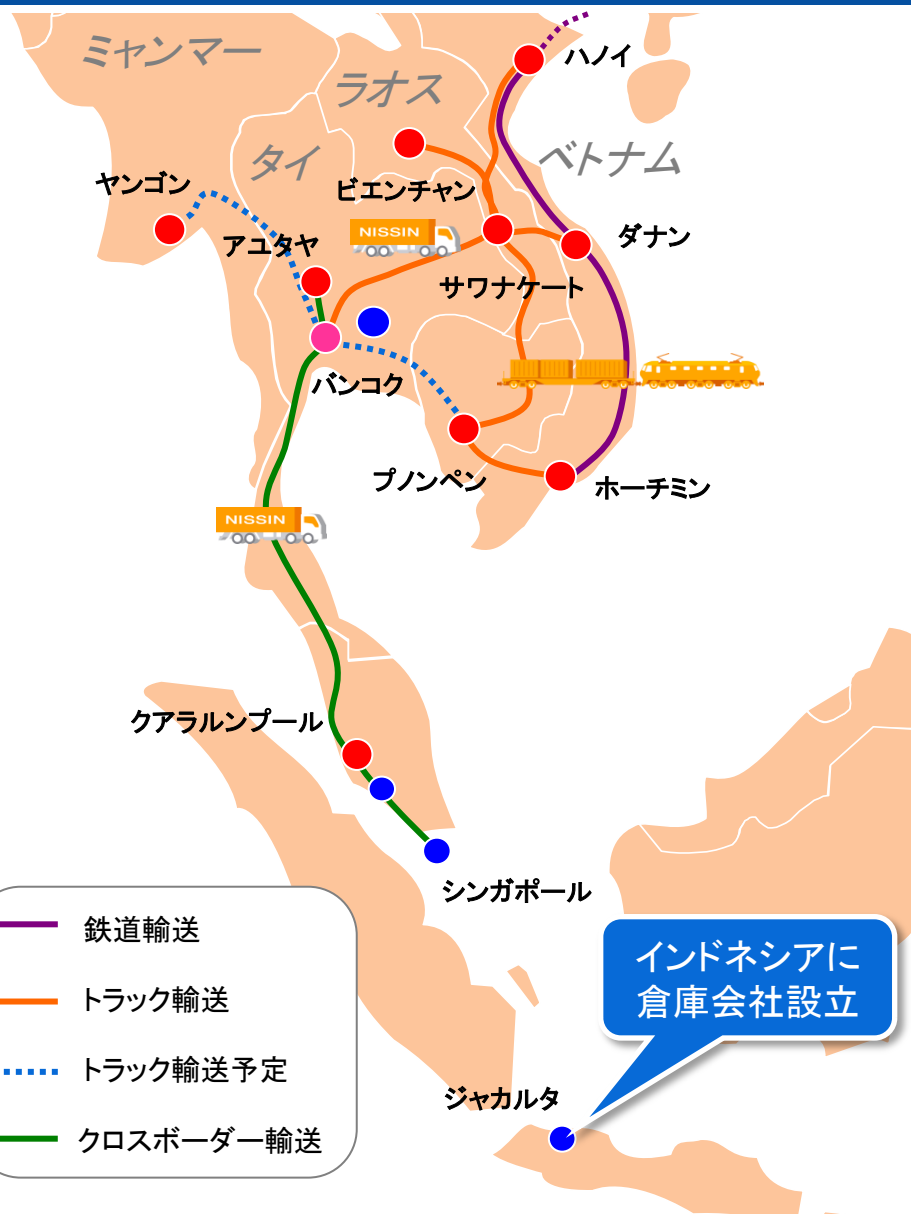
グローバル調達
の拡大

- 世界規模でのグローバル調達が加速
- 日新の強みであるネットワークを活かしてグローバル調達に対応

インドネシアにおける新たな物流サービス

The background features a dynamic, abstract design with several thick, flowing blue lines that sweep across the frame from the bottom left towards the top right. These lines are set against a clean white background, creating a sense of movement and modernity.

アジア戦略 ～ アセアン域内広域物流網の構築 ～



ベトナム南北鉄道輸送サービス

- 2008年5月 カーワゴン(四輪車輸送)運行開始
- 2012年11月 ブロクトレイン(コンテナ鉄道)運行開始
- 2013年11月 ダナン支店開設

広域東西回廊(MLB)サービス

- 2012年3月 メコン・ランド・ブリッジサービス提供開始(タイ～ラオス～ベトナム間)
- 2014年4月 ラオス～カンボジアのルート完成

クロスボーダー輸送

- 1998年～ クロスボーダー輸送サービス提供中

倉庫拡充

- 2013年10月 マラッカ新倉庫稼働(8,500㎡)
- 2014年1月 シンガポール新倉庫稼働(5,800㎡)
- 2014年2月 タイ・プラチンブリ県で自動車部品向け新倉庫稼働(8,000㎡)
- 2014年3月 インドネシアに倉庫会社設立

食品専用低温トラック輸送

- 2012年4月 低温トラック輸送サービス提供開始

インドネシアに
倉庫会社設立

インドネシアにおける日新の展開

2004年 PT. NISSIN TRANSPORT
INDONESIA (インドネシア日新)
設立

自動車関連企業をメイン顧客に、
フォワーディング事業の拡大

インドネシア国内における動き

インドネシアの内需好調を背景とした
日系自動車メーカーの進出

東南アジアの生活向上による
新たな物流ニーズの発生

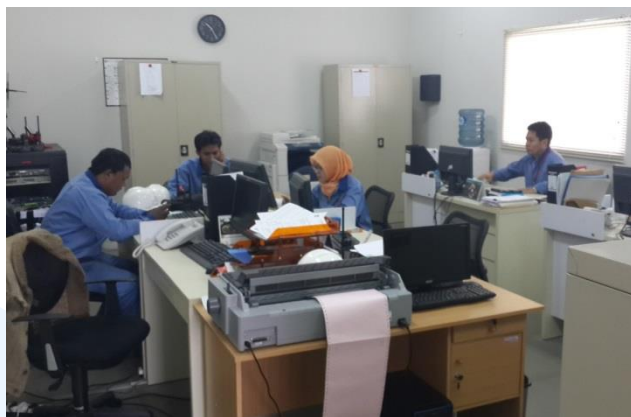
2014年 PT. NISSIN JAYA INDONESIA (日新ジャヤ・インドネシア) 設立
倉庫保管・国内配送サービスの開始

- 日系化学品メーカー様のJIT対応デリバリー倉庫業務、および、日系衛生用品メーカー様への国内配送業務



- インドネシアは成長著しい新興国（人口は世界第4位、GDPは3,500ドル（2013年時点））
→積極的に衛生用品関連事業へ展開

1. コンプライアンス



1973年の米国進出以来、海外展開の実績を豊富に持つ当社は、外資規制・事業規制が厳しいインドネシアでも、コンプライアンスに則った事業運営が可能

2. 高度な物流技術・品質



インドネシア国内においても、日本と同等以上の物流品質をもって日系企業のあらゆるニーズに対応可能

インドネシアにおける鉄道輸送サービス

- ジャカルタ～スラバヤ間(約800Km)の鉄道輸送サービスを2014年9月に開始

ジャカルタ・
タンジュプリオク港

スラバヤ



- 今後は3PL事業の拡大や輸出入フォワーディング業務の取り込みへ

(総括) 本日の決算説明会のポイント

第2四半期決算実績は 増収、営業増益

- アジア地域を中心に自動車関連物流が好調に推移、日本・欧州地域の改善に加え旅行が寄与
- 当期利益の減少は、第1四半期での特別損失

通期計画は 当期利益を除き変更なし

- 通期計画は、当期利益の修正以外は期初計画通り

自動車部品物流の 見通しは引き続き好調

- 自動車の現地生産拡大やグローバル調達増加に伴い、自動車部品物流は引き続き好調が見込まれる

インドネシアにおける 物流事業に新たな展開

- インドネシアに2社目となる新たな現地法人を設立
- 生活向上を背景とした国内物流需要へ対応